

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	2020年11月13日
【四半期会計期間】	第134期第2四半期（自 2020年7月1日 至 2020年9月30日）
【会社名】	株式会社太平製作所
【英訳名】	Taihei Machinery Works, Limited
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 齊藤 武
【本店の所在の場所】	愛知県小牧市大字入鹿出新田字宮前955番 8
【電話番号】	(0568) 73 - 6411 (代表)
【事務連絡者氏名】	取締役総務部長 近藤 守
【最寄りの連絡場所】	愛知県小牧市大字入鹿出新田字宮前955番 8
【電話番号】	(0568) 73 - 6411 (代表)
【事務連絡者氏名】	取締役総務部長 近藤 守
【縦覧に供する場所】	株式会社名古屋証券取引所 (名古屋市中区栄三丁目8番20号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第133期 第2四半期 連結累計期間	第134期 第2四半期 連結累計期間	第133期
会計期間	自2019年 4月1日 至2019年 9月30日	自2020年 4月1日 至2020年 9月30日	自2019年 4月1日 至2020年 3月31日
売上高 (千円)	3,481,145	1,449,993	6,724,660
経常利益 (千円)	409,730	21,800	678,381
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	289,286	3,683	223,314
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	277,332	14,899	198,465
純資産額 (千円)	5,252,342	5,116,881	5,132,703
総資産額 (千円)	8,606,537	8,528,574	8,488,137
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	214.59	2.69	164.98
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	61.0	60.0	60.5
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	1,724,203	220,669	1,297,403
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	54,641	22,999	83,363
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	127,251	612,517	182,459
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	4,091,381	3,949,497	3,580,650

回次	第133期 第2四半期 連結会計期間	第134期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自2019年 7月1日 至2019年 9月30日	自2020年 7月1日 至2020年 9月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	66.59	21.84

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの感染症拡大により経済活動が制限され、景気は急速に後退しました。

緊急事態宣言の解除後は持ち直しの動きが見受けられるものの、新型コロナウイルス感染症の収束時期の見通しが立たず、依然として厳しい状況であります。

また、世界経済におきましても新型コロナウイルスの感染症拡大に伴う景気後退や、貿易摩擦により米中の対立が深まるなど、世界経済の先行きは不透明な状況で推移しております。

当社を取り巻く事業環境も、世界的な景況悪化の影響を受け需要が減少したことから厳しい状況であります。

客先においても景気減速による需要低下から設備投資意欲は低下しており、当社の受注も厳しい状況で推移いたしました。

これらの結果、売上高は1,449百万円（前年同四半期比58.3%減）となりました。利益につきましては、営業損失は53百万円（前年同四半期は405百万円の営業利益）、経常利益は21百万円（前年同四半期比94.7%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は3百万円（前年同四半期比98.7%減）となりました。

セグメントの経営成績は次のとおりであります。

合板機械事業

合板機械事業は、主要機械の設備投資が一段落した中、市況が急激に悪化したことにより設備投資意欲が低下しております。また、海外での営業活動および据付工事が行えない状況が継続しており、受注・売上共に厳しい状況となりました。これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は761百万円（前年同四半期比72.2%減）、営業損失は24百万円（前年同四半期は508百万円の営業利益）となりました。

木工機械事業

木工機械事業は、開発機械の市場投入には至っておりませんが、チッパーが継続的に受注・売上出来ていることから売上は堅調に推移いたしました。また営業活動が制限されていることなどから販売活動費が減少いたしました。これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は371百万円（前年同四半期比37.0%増）、営業利益は48百万円（前年同四半期は87百万円の営業損失）となりました。

住宅建材事業

住宅建材事業は、新型コロナウイルス感染症拡大により経済活動が停滞していること、収束時期の見通しが立たないことによる先行きへの不安などから、住宅着工戸数が減少しており非常に厳しい状況で推移しております。これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は339百万円（前年同四半期比28.5%減）、営業損失につきましては、20百万円（前年同四半期は47百万円の営業利益）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて1.1%増加し、6,697百万円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金が193百万円減少、その他が283百万円減少、現金及び預金が386百万円増加、仕掛品が138百万円増加したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて1.9%減少し、1,831百万円となりました。これは主に、減価償却による減少であります。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて0.5%増加し、8,528百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて9.5%減少し、2,601百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金が627百万円減少、未払法人税等が106百万円減少、完成工事補償引当金が59百万円減少、短期借入金が350百万円増加、前受金が103百万円増加したことによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて68.7%増加し、810百万円となりました。これは主に、長期借入金が340百万円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて1.7%増加し、3,411百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて0.3%減少し、5,116百万円となりました。これは主に、利益剰余金が64百万円減少、自己株式が22百万円減少、資本剰余金が14百万円増加したことによるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前期末残高と比べ368百万円増加し、3,949百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、使用した資金は220百万円(前年同四半期は1,724百万円の獲得)となりました。これは主に、仕入債務の減少による資金の減少が、売上債権の減少による資金の増加を上回ったためであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、使用した資金は22百万円(前年同四半期は54百万円の使用)となりました。これは主に、定期預金の預入及び有形固定資産の取得によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、獲得した資金は612百万円(前年同四半期は127百万円の使用)となりました。これは主に短期借入れ及び長期借入れによる資金の増加によるものであります。

(4) 経営方針・経営戦略等及び経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等及び経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等について重要な変更はありません。

(5) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(6) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、108百万円であります。
なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(7) 会計上の見積り及び該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	2,500,000
計	2,500,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2020年9月30日)	提出日現在発行数 (株) (2020年11月13日)	上場金融商品取引所名又は登録 認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	1,500,000	1,500,000	名古屋証券取引所市場第二部 東京証券取引所市場第二部	単元株式数 100株
計	1,500,000	1,500,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2020年7月1日～ 2020年9月30日	-	1,500,000	-	750,000	-	77,201

(5) 【大株主の状況】

2020年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
木戸 修	愛知県豊田市	135	9.80
太平製作所取引先持株会	小牧市大字入鹿出新田字宮前955番 8	119	8.66
太平製作所自社株投資会	小牧市大字入鹿出新田字宮前955番 8	117	8.54
SI Arbitrage ST 投資事業有限責任組合無限責任組合員株式会社 サステイナブル・インベスター	千代田区三番町2-2千鳥ヶ淵ハウス504	42	3.10
株式会社名南製作所	大府市梶田町 3 丁目130番地	38	2.81
内藤 幸男	愛知県大府市	35	2.60
株式会社三菱UFJ銀行	千代田区丸の内 2 丁目 7 番 1 号	33	2.43
成田 光将	愛知県東海市	33	2.40
株式会社愛知銀行	名古屋市中区栄 3 丁目14番12号	25	1.81
株式会社名古屋銀行	名古屋市中区錦 3 丁目19番17号	25	1.81
三井住友信託銀行株式会社	千代田区丸の内 1 丁目 4 番 1 号	25	1.81
計	-	630	45.82

(注) 上記のほか、当社は自己株式123千株を保有しております。

(6)【議決権の状況】

【発行済株式】

2020年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 123,400	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,371,100	13,711	-
単元未満株式	普通株式 5,500	-	-
発行済株式総数	1,500,000	-	-
総株主の議決権	-	13,711	-

(注)「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1,100株含まれております。
また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数11個が含まれております。

【自己株式等】

2020年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
株式会社太平製作所	愛知県小牧市大字入鹿出 新田字宮前955番8	123,400	-	123,400	8.23
計	-	123,400	-	123,400	8.23

(注)自己株式は、2020年7月22日に実施した譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分により、17,576株減少しております。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2020年7月1日から2020年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2020年4月1日から2020年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、栄監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,997,687	2,384,537
受取手形及び売掛金	1,648,742	1,454,780
有価証券	2,000,000	2,000,000
仕掛品	374,903	513,443
原材料及び貯蔵品	254,016	281,833
その他	351,250	67,399
貸倒引当金	5,104	4,767
流動資産合計	6,621,496	6,697,228
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	585,670	565,407
土地	689,746	689,746
その他(純額)	147,807	131,949
有形固定資産合計	1,423,224	1,387,103
無形固定資産		
その他	63,561	54,098
無形固定資産合計	63,561	54,098
投資その他の資産		
その他	379,855	390,144
投資その他の資産合計	379,855	390,144
固定資産合計	1,866,640	1,831,346
資産合計	8,488,137	8,528,574
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,148,109	520,913
短期借入金	650,000	1,000,000
未払法人税等	128,156	21,892
賞与引当金	95,753	60,423
完成工事補償引当金	137,000	77,500
前受金	572,283	675,734
その他	143,595	244,538
流動負債合計	2,874,898	2,601,002
固定負債		
長期借入金	-	340,000
退職給付に係る負債	256,163	251,663
役員退職慰労引当金	19,737	19,737
その他	204,635	199,290
固定負債合計	480,535	810,690
負債合計	3,355,433	3,411,693

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	750,000	750,000
資本剰余金	88,842	103,156
利益剰余金	4,473,605	4,409,336
自己株式	184,718	161,801
株主資本合計	5,127,729	5,100,690
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,973	16,190
その他の包括利益累計額合計	4,973	16,190
純資産合計	5,132,703	5,116,881
負債純資産合計	8,488,137	8,528,574

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
売上高	3,481,145	1,449,993
売上原価	2,623,923	1,140,090
売上総利益	857,221	309,902
販売費及び一般管理費	451,998	363,487
営業利益又は営業損失()	405,223	53,584
営業外収益		
受取利息	75	55
受取配当金	2,176	2,076
鉄屑売却収入	1,365	1,069
保険解約返戻金	547	285
助成金収入	-	69,549
その他	1,746	4,147
営業外収益合計	5,911	77,183
営業外費用		
支払利息	1,404	1,743
その他	-	55
営業外費用合計	1,404	1,798
経常利益	409,730	21,800
特別利益		
固定資産売却益	385	-
特別利益合計	385	-
特別損失		
投資有価証券評価損	-	4,090
その他	-	0
特別損失合計	-	4,090
税金等調整前四半期純利益	410,115	17,710
法人税、住民税及び事業税	149,209	14,398
法人税等調整額	28,380	372
法人税等合計	120,828	14,026
四半期純利益	289,286	3,683
親会社株主に帰属する四半期純利益	289,286	3,683

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益	289,286	3,683
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	11,954	11,216
その他の包括利益合計	11,954	11,216
四半期包括利益	277,332	14,899
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	277,332	14,899

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	410,115	17,710
減価償却費	62,306	49,054
株式報酬費用	8,598	17,935
貸倒引当金の増減額(は減少)	9,955	337
賞与引当金の増減額(は減少)	3,730	35,330
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	10,346	4,499
完成工事補償引当金の増減額(は減少)	36,000	59,500
受取利息及び受取配当金	2,251	2,131
支払利息	1,404	1,743
助成金収入	-	69,549
固定資産除売却損益(は益)	385	0
投資有価証券評価損益(は益)	-	4,090
売上債権の増減額(は増加)	2,112,935	193,961
たな卸資産の増減額(は増加)	179,630	166,356
仕入債務の増減額(は減少)	222,658	627,195
前受金の増減額(は減少)	527,155	103,451
その他	226,715	431,393
小計	1,815,252	145,560
利息及び配当金の受取額	2,251	2,131
利息の支払額	1,767	1,720
助成金の受取額	-	41,840
法人税等の支払額	91,533	117,360
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,724,203	220,669
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	18,003	18,003
有形固定資産の取得による支出	36,770	3,784
有形固定資産の売却による収入	385	-
投資有価証券の取得による支出	252	260
無形固定資産の取得による支出	-	950
投資活動によるキャッシュ・フロー	54,641	22,999
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	-	350,000
長期借入れによる収入	-	340,000
自己株式の取得による支出	49	118
配当金の支払額	106,129	67,453
リース債務の返済による支出	21,071	9,910
財務活動によるキャッシュ・フロー	127,251	612,517
現金及び現金同等物に係る換算差額	173	1
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,542,137	368,846
現金及び現金同等物の期首残高	2,549,243	3,580,650
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,091,381	3,949,497

【注記事項】

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響)

新型コロナウイルス感染症の影響につきましては、2020年6月26日に提出しました133期有価証券報告書の追加情報に記載した内容に変更ありませんが、新型コロナウイルス感染症の今後の拡がり方や収束時期等により、当社の想定と乖離する可能性があります。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
荷造運賃	87,177千円	62,086千円
貸倒引当金繰入額	9,955	337
役員報酬	84,372	109,486
従業員給料	69,131	67,826
賞与引当金繰入額	23,139	11,946
退職給付費用	2,872	3,848
旅費交通費	56,148	10,262

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
現金及び預金勘定	2,490,414千円	2,384,537千円
有価証券(合同運用指定金銭信託)	2,000,000	2,000,000
預金期間が3か月を超える定期預金	399,033	435,040
現金及び現金同等物	4,091,381	3,949,497

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自2019年4月1日 至2019年9月30日)

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月27日 定時株主総会	普通株式	107,337	80	2019年3月31日	2019年6月28日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの。

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年11月7日 取締役会	普通株式	40,771	30	2019年9月30日	2019年12月2日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自2020年4月1日 至2020年9月30日)

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年6月26日 定時株主総会	普通株式	67,952	50	2020年3月31日	2020年6月29日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの。

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年11月4日 取締役会	普通株式	41,297	30	2020年9月30日	2020年12月1日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自2019年4月1日 至2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			
	合板機械事業	木工機械事業	住宅建材事業	計
売上高				
外部顧客への売上高	2,735,697	270,881	474,566	3,481,145
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	271	-	271
計	2,735,697	271,152	474,566	3,481,416
セグメント利益又は損失()	508,354	87,039	47,410	468,724

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利 益	金 額
報告セグメント計	468,724
未実現利益の消去	157
全社費用(注)	63,658
四半期連結損益計算書の営業利益	405,223

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自2020年4月1日 至2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			
	合板機械事業	木工機械事業	住宅建材事業	計
売上高				
外部顧客への売上高	761,655	348,949	339,387	1,449,993
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	22,500	-	22,500
計	761,655	371,449	339,387	1,472,493
セグメント利益又は損失()	24,618	48,550	20,115	3,816

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利 益	金 額
報告セグメント計	3,816
未実現利益の消去	155
全社費用(注)	57,556
四半期連結損益計算書の営業損失()	53,584

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
1株当たり四半期純利益	214円59銭	2円69銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	289,286	3,683
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	289,286	3,683
普通株式の期中平均株式数(千株)	1,348	1,365

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

2020年11月4日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 中間配当による配当金の総額.....41,297千円

(ロ) 1株当たりの金額..... 30円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....2020年12月1日

(注) 2020年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年11月13日

株式会社太平製作所

取締役会 御中

栄監査法人

名古屋事務所

代表社員
業務執行社員

公認会計士

横井 陽子 印

業務執行社員

公認会計士

高原 輝 印

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社太平製作所の2020年4月1日から2021年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2020年7月1日から2020年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2020年4月1日から2020年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社太平製作所及び連結子会社の2020年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。